

【参考】

評点についてご意見をいただきましたが、総合評価における評点は、下記のとおりですので、ご理解のほどよろしく願いいたします。個別の評価項目においては、「b」が「計画のとおり」、「妥当である」等となっております。

- A. 所期の計画以上の取組が行われている
- B. 所期の計画と同等の取組が行われている
- C. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組も見られる
- D. 総じて所期の計画以下の取組である

【主査からのコメント】

「女性研究者支援モデル育成」評価作業部会におきましては、評価項目として、「目標達成度」、「取組の成果」、「取組の妥当性・効率性」、「波及効果」、「実施体制の妥当性」及び「実施期間終了後における取組の継続性・発展性」を「a」、「b」、「c」、「d」の4段階評価とすることと決め、報告書、事前提出資料及びヒアリングの内容を総合して、評価項目ごとの評価と総合評価を決定しています。「所期の目標に達した」、「妥当である」、「継続性・発展性の確保が期待できる」という評価が「b」評価となります。

総合評価については、それぞれの機関に、所期の計画以上の取組や、特筆すべき優れた取組がありましたが、作業部会の総意により、「目標達成度」及び「実施期間終了後における取組の継続性・発展性」の2項目を重視いたしました。このため、2項目のうち一方が「b」になった機関の総合評価は「B」となりましたが、総合評価「A」の機関だけでなく、「B」の機関も、特色ある優れたモデル事業によって全国の研究機関や関係者の意識改革に果たした役割は非常に高いと評価されていることを付記いたします。

教員採用における女性比率につきましては、各機関の成果報告書における統計データの書式を統一にするため、事前資料のご提出を依頼いたしましたが、評価に当たってミッションステートメント、若しくは採択時コメント以上の成果を求めたものではありません。しかし、本プログラムが第3期科学技術基本計画の実現のために実施されていること等にかんがみ、平成18年度教員採用における分野別女性比率（文部科学省調査）の全国平均値に比較して、女性教員の実施期間中（3年間）の採用実績が著しく低い部局があるにもかかわらず、そのことについての分析が行われていない機関や、部局ごとの中長期目標をご提示いただけなかった機関に対しては、全学における意識の共有や周知を願う旨、評価結果報告書のコメントに特記させていただきました。